

リレーコラム No.5 (平成 29 年度)



## 「八頭町での福祉活動の広がり」

福祉学習サポーター 小林哲子

今、八頭町では、住民の主体による福祉活動が広がってきています。少子高齢化が進み、単身高齢者・高齢者世帯の増加や核家族が増え、それに伴って地域のつながりが薄れつつある中で、住民同士のつながりをもう一度つなぎなおし、皆で支え合おうとする取り組みです。

八頭町内にある14の地区を単位として活動している「まちづくり委員会」では、住民同士の交流や世代間交流・地域外との交流などで様々な人が関わり合い、高齢者がいつまでも健康でいられる地区、子どもや子育て世帯が健やかに成長できる温かい地区にと取り組みが進んでいます。子どもたちの長期休みでは各地区で子どもたちを受け入れ、様々な体験活動を地域の人たちと一緒に行うなど、小・中学校でそれぞれ統合がおこなわれコミュニティとの距離が遠くなる中で、「まちづくり委員会」は地区の核となる活動として期待されています。また、そこでは高齢者と子どもと一緒に過ごし、ふれあい、学びあいの空間があるので自然な形での福祉教育にもつながっています。今後は、逆に小・中学校の先生方

もこの地区の活動へ参加していただけると、地区と学校のつながりも生まれ、より実践的な福祉学習へと展開が期待できるのではないのでしょうか。期待は膨らみます。

また、手話サークルや傾聴ボランティアグループの設立、子ども食堂の開設など、当事者を支援する活動も少しずつですが広がってきています。様々な生活課題が地域で顕在化しつつある中で、当事者の課題に向き合って、それを支えていこうとする住民活動が生まれてくることは大変うれしいことです。もっと多くの人に福祉の理解が進み取り組みが伝わり、支援の輪（福祉の心）が広がってほしいと思います。

こうした取り組みを振り返ってみると、様々な立場の人が一緒に関わるのがとても大切なことだとあらためて感じます。福祉の心は、たくさん人が関わることでお互いに育まれていくのではないのでしょうか。そして、関わりの中で自分たちの地域を大切に作る心も同時に育っていくものと思います。

少子高齢化を食い止めることはなかなか大変なことです。地域を大切にする人が増えることで、素晴らしい地域で在り続けることはできると思います。

今後のさらなる八頭町内での福祉活動の発展を期待したいと思います。